

13（令和2年度試験）コマツナの冬季栽培における品種比較試験

背景と目的

これまで農業センターにおける冬季野菜栽培試験等で供試し、市内における無加温栽培適性があると確認されたコマツナ‘陽翠’は、低温伸長性に優れ、生育のそろいが良く、カップング等の生理障害も少ない品種です。しかし、1月中旬から抽苔することがあるため、‘陽翠’と同等の低温伸長性を有し、かつ、晩抽性の品種を模索しました。

関係先

市内生産者・市内直売所

試験概要

(1) 供試品種

No.	品種	販売元
標準品種	陽翠	渡辺農事(株)
1	さくらぎ	(株)サカタのタネ
2	緑郷Sタイプ	(株)寺岡種苗園
3	TSX-984	トキタ種苗(株)
4	神楽坂	(株)日本農林社
5	冬里	(株)武蔵野種苗園
6	MS-1285	(株)武蔵野種苗園
7	菜々美	タキイ種苗(株)

(2) 播種日 令和2年9月28日

(3) 栽植密度 条間18cm, 株間6cm, 9,259株/a, 2反復

(4) 使用資材 雨よけハウス, 防虫ネット, 内張カーテン, トンネル

※内張カーテン, トンネルは11月16日から使用し, 毎日開閉しました。

(5) 調査方法 11月17日からおおむね1週間ごとに1区画から10株収穫

(6) 評価方法

草丈, カップング, 収量性を重視して, 各品種の評価を行いました。

試験結果

(1) 概要

令和2年度は, 11月4日に初雪, 11月30日に根雪となりました。12月15日に葉が凍結しましたが, 翌日には解け, 葉の傷み等はありませんでした。しかし, 1月4日を除く12月31日から1月12日の朝まで, ハウス内の最低気温が -5°C 以下の日が続き, 全ての品種が凍ったままとなり, その後, 1月12日の昼以降, 気温の上昇により解凍されましたが, 著しい葉のしおれが回復しなかったため, 1月11日で調査を打ち切りました。そのため, 各品種の晩抽性は確認できませんでした。

なお, 期間中のハウス内の最低気温は1月6日の -12.4°C であり, 同日の最低外気温

は-23.9℃でした。

(2) 有望品種

‘陽翠’と比較して、冬季の栽培に適性が高いと考えられる品種として、‘さくらぎ’ ‘TSX-984’ ‘MS-1285’ が本作型に適する品種と考えられます。また、この3品種は‘陽翠’よりも発芽が良好でした。

なお、本試験では晩抽性については確認できていないため、‘陽翠’が抽苔する可能性がある1月中旬以降に、本試験で冬季の栽培に適性が高いとした品種が出荷可能かどうかは未知数であるため、作付の際には注意してください。

ア さくらぎ

‘陽翠’に比べ、草丈が長く、カップングが少なく、収量が多い品種です。



イ TSX-984

‘陽翠’に比べ、草丈が長く、カップングが少なく、収量が多い品種です。



ウ MS-1285

‘陽翠’に比べ、草丈が長く、カップングが少なく、収量が多い品種です。また、葉が除去しやすく、調製作業が容易でした。

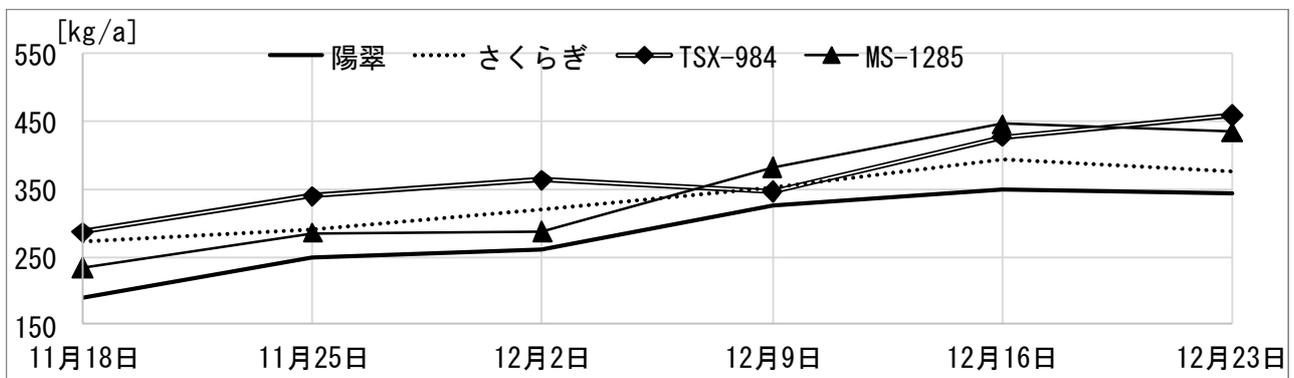


図 a 当たりの収量（不発芽による欠株を除く。）